

ものづくりの魅力文系学生にも

樽商大生が铸造体験

室工大で「目利き塾」

製造業の現場や技術を文系学生にも知ってもらおう「ものづくり目利き塾」が9、10の両日、室蘭工大で開かれた。小樽商大の3、4年生7人が参加し、鉄の铸造などを体験した。

室蘭工大は昨年、北洋銀行と市職員を対象に、製造業への理解を深めてもらうと初めて開催。今年は小樽商大生向けに製造現場を知ってもらう狙いで、両大が共催した。逆に9月には工大生が商大で経営学を学び、ビジネス感覚を身につけた技術者を目指す。9日はスズの铸造を体

験。10日はものづくり基盤センター長の清水一道教授の指導で、シンギスカン鍋の铸造に挑んだ。砂で作った鑄型に1400度に溶かした鉄を流し込んだ。鉄が固まり、砂から鍋が取り出されると、商大生たちは、「おおー」と驚きの声を上げた。

一行は日本製鋼所にも見学に訪れた。会計学を学び、金融機関への就職を希望する東本真弥さん(20)は「商

清水教授(右から2人目)と共に鑄型に鉄を流し込む小樽商大生



品だけを見て良さを判断せ

ず、現場の設備や技術力にも目を向きたい。良い経験になった」と話した。(菅野愛)